

伊賀市 「事務事業評価」 結果総括シート〔2次評価シート〕

(4) 評価実施年度	平成 21 年度
(5) 評価責任者職名	企画振興部長
(6) 評価責任者氏名	堂山 敏夫
(7) 評価者	伊賀支所長、鳥ヶ原支所長、阿山支所長、大山田支所長、青山支所長

(1) 政策	コード 24	名称 (1)市内外を移動しやすいまちづくり
(2) 基本施策	コード 51	名称 ③市内交通機関の利便性を高める
(3) 生活課題	51	利用したい層の望みにあう形で、循環バスが十分に利用されている

(9) 継続・新規 (21,22,23,24)	コード	(10) 事務事業名	コード	(11) 担当部課名	(12) 事業費(千円)			(13) H22投入人員		主な成果(新規事業の場合は目標)		1次評価結果						2次評価											
					H20 決算額	H21 予算 額・補 正要求 額	H22 要求 見込額	人	人件費	(14) 指標名	指標の数値		(17) 指標の 単位	(18) 評価 類型	個別評価				(23) 総合 評価	(24) 方向性	(25) 1次評 価修正 有・無	(26) 修正点	(27) 修正の理由	(28) 改革改善 案修正の 有・無	(29) 修正点	(30) 優先 度 区分	(31) 方向 性	(32) 方向性の評価につ いて	(33) その他の改革 改善点について
											(15) 20年度 (実績)	(16) 22年度 (目標)			(19) 必要性	(20) 有効性	(21) 達成度	(22) 効率性											
継続	109	交通計画策定事業・交通計画推進事業	40100	企画調整課	2,732	762	5,830	0.5	3,600	交通計画実施スケジュールの実施件数	11	5件	I	4	4	3	3A	現状維持								3G	c	委託料のコストを削減する。	
継続	110	地域公共交通会議	40100	企画調整課	100	163	504	0.3	2,160	協議成立率	100	100%	I	4	4	3	3A	現状維持								4G	c	法令に基づく組織で、事務的経費	
継続	111	行政バス運行経費(上野コミュニティバス)	40100	企画調整課	22,595	21,841	33,100	0.4	2,880	年間利用者数	37174	50000人	I	3	3	2	3D	現状維持	有	必要性の3を4に修正し、総合評価DをBとする。	評価をそろえる。								
継続	118	行政バス運行経費	550100	伊賀支所総務振興課	10,294	14,163	11,400	0.7	5,040	収支率	23.9	23.6%	I	4	3	4	4A	現状維持	有	効率性の4を2に修正し、総合評価AをBとする。	評価をそろえる。								
継続	138	行政バス運行経費	600100	鳥ヶ原支所総務振興課	4,076	4,122	4,122	0.1	720	年間利用者数	6933	7300人	I	4	3	3	3A	現状維持	有	効率性の3を2に修正し、総合評価AをBとする。	評価をそろえる。				2G	b	利用者の増を図る。		
継続	152	行政バス運行経費	650100	阿山支所 総務振興課	8,273	11,590	8,804	1.8	12,960	年間利用者数	6868	7000人	I	4	3	3	2B	現状維持											
継続	171	行政バス運行経費	700100	大山田支所総務振興課	4,388	4,600	8,600	0.1	720	年間利用者数	4781	5000人	I	3	3	3	3C	現状維持	有	必要性の3を4に、効率性の3を2に修正し、総合評価CをBとする。	評価をそろえる。								
継続	186	行政バス運行経費	750100	青山支所 総務振興課	27,173	25,418	30,072	0.3	2,160	収支率	35.8	40%	I	3	3	4	3C	現状維持	有	必要性の3を4に、達成度の4を3に、効率性の3を2に修正し、総合評価CをBとする。	評価をそろえる。								
継続	112	地方バス路線維持経費	40100	企画調整課	59,761	58,457	59,000	0.5	3,600	年間利用者数	221037	223000人	I	3	3	3	3C	現状維持	有	必要性の3を4に、効率性の3を2に修正し、総合評価CをBとする。	評価をそろえる。				3G	c	利用者の増を図る。		
継続	113	地域交通対策事業	40100	企画調整課	1,550	5,700	2,000	0.1	1,008	年間利用者数	1866	2300人	I	4	3	3	4A	拡大							1G	b	利用者の増を図る。	公共交通空白地域の交通手段として、効率的な運送であり、普及に努める。	